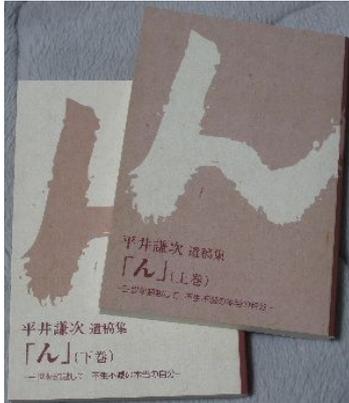


「もとはこちら」のお話し

35 今月のテーマ 被害者になった時

2009年(平成21年)11月21日(土)



*三世を超越して不生不滅の本当の自分
H21年1月発行

想った事を想われ 言ったことを言われ した事をされる

自分のしていらぬ事は、人にもするな。
してほしいことを、人になせ

(平井謙次作「日めくりカレンダー」より)

北原ゆり筆

ある新聞の人生相談コーナーに出ていた話です。
相談者は、失業した時に出た一時金を、妻に内緒で勝手に使ってしまった旦那さんです。

その後再就職は出来たものの、一時金の事がばれてしまい、以来十年間、妻はひと言も口を利いてくれない。

子供達は大きくなって既に家を出ており、このさき妻と二人で何とか仲良くやって行きたいが、さて、どうしたらいいだろうかという、まことに切ない相談です。

これに対し、「とにかく徹底的に謝ること。機嫌が直るまでは奴隷となつたつもりで、何十年でも妻の喜ぶ事をやり続けなさい」とのアドバイス。

なるほど、なるほど、さすがは名回答。読んで私も大いに肯いたのですが、頷きながらも考えたのです。相談者の旦那の方はこれでもいいとして、はたして妻の方はどうなのだろうかなど。

被害者には、何の落ち度もないのか

妻は「そんな男は絶対ゆるせん」と、ものすごく怒っているわけです。

そして悪い事をしたヤツは、責められて当然、と思っているのです。もしかしたら、妻はこの先もずっと相手を赦さず、死ぬまでだんまり戦術を続けるつもりかもしれません。

しかし問題は、これで妻は本当に良いのだろうか、幸せになれるのだろうかという事です。

夫の方は自分の非を認め、しっかりと反省も出来た結果、訂正し



た良い方向に向かえるかもしれません。

しかし妻の方は、自分には何の落ち度もなく、自分は正しかったと思っっているのです。正しいと思っっているのだから、当然、何の反省も訂正も起こってくる事はありません。

ですからこれから今まで通りで行くわけですから、同じよう不幸な事が、また身边に起こってくる可能性が非常に高いと考えられます。

実は私達は不幸な事を体験する事によって、「その生き方・考え方は間違っっている。訂正しなさいよ」と、自然の摂理である神様から教えられているわけです。

ですから今までよりも少しでも幸せになるためには、当然のことながら、加害者だけではなく、事の当事者である被害者の方も、生き方・考え方を変える必要があるのです。

もしも夫婦の間に、それまでに良い信頼関係が出来あがっていたとすれば、失業というような大ピンチの時も、二人でしっかりと協力して、その危機を乗り越えようとした筈です。

しかし今回の結果から見て、残念ながら二人の間には、そういう信頼関係は出来上がっていなかったという事が分ります。

将来の事、家計の事、子供達の事、やがて来る自分達の老後の事などを、折に触れ、いつも話し合っっていたかどうか。

あるいはまた、以前に妻は夫から何か良い事をしてもらった時に、それを心から喜び、感謝の気持ちを表わしてい

ただろうか、等という事です。

良い事をしてもらいながら、もしも「そのやり方が気に食わない」とか、「やっってもらっって当然」、あるいは「まだまだ足りない」というような思い上がった態度を見せていたとすれば、夫がよほどの優れた人格者でもないかぎり、妻に隠れてこっそりとお金を使うというような事もやりかねません。

ですから幸せになるためには、夫だけではなく妻の側にも、「自分の方にも色々と至らなかつた事があつたのではないか」と過去を振り返り、反省や訂正をすることが、とても大事な事なのです。

した事を、される

しかし被害者になつた時には、大体誰でもそうですが、自分の事は棚に上げて、とにもかくにも相手の非を責めるものです。

そして謝罪を求め、相手を赦すとか赦さないなどと、上座に座つて偉そうにいうのです。

しかしなぜこの自分が、被害者になつたのかという事です。

自然の摂理の中に、作用と反作用の働きがあるという事は、今までも度々書かせていただきましたが、それは「した事をされる」ということです。

この例でいえば、妻はいつか昔、家計に入れるべき大切なお金を、一人で勝手に使っつてしまい、家の人達に迷惑を



掛けていたという事です。

またこの法則を夫の側に当てはめてみますと、夫はいつか昔、今とは逆の立場にあり、大切なお金を勝手に使ってしまった相手を十年もの間責め続け、口もきかず辛い思いをさせていたという事が、今回の騒動からは読み取れます。

この作用に対する反作用の働きが、短いこの一生の中で起こって来るとは限りません。

体験する事の80%ほどの事は、前世もしくはそれ以前の過去世を原因として、今生の運命となって表われて来ているといわれています。

良い事であっても悪い事であっても、殆どが身に覚えのない事を原因として表われて来るわけですから、「自分はそんな事をした覚えはない」といくら頑張っても、それは通りません。

それに前世の事どころか、今世の事に限っても、人間の記憶などというものは、全く当てにならないものです。

誰でもお母さんのお腹の中にいたという事実がありながら、その事を記憶している人は殆どいないという事からみて、それは明らかです。

因果は巡る

身に覚えがあるうがなかるうが、「した事と同質同量の事をされる」というこの自然の摂理は絶対のものであり、誰も逃れる事のできない神の法則です。



それで、「勝手にお金を使ってしまう」という同じ因子を持つ二人が、それぞれ今度は過去と反対の事をし合つて、要は、した事をされて、お互いの過去の罪を消しあつたという事です。

ですから本来ならば相手に対し、「すみません」のお詫びの心と、そして「これで自分でも気が付かなかった内なる過去の掃除ができた。」「ありがとう」と、感謝の心で接する事ができるはずなのです。

しかし、なかなかそういう事の出来る人はおりません。殆どの人が、自分が被害者になった時、なぜ自分が被害者になったのかという深い理由も分らぬままに、この妻の様にただひたすらに相手を責めるのです。

人を責めるという事は、いずれの日にかまた、した事をされる、即ち「責めれば、責められる」の摂理通り、ちよつとした事で人から責められる羽目となり、責めたり責められたりで、いつまでたっても因果の輪を抜け出る事が出来ません。

こういう事を、因果は巡るといふのです。

相手を責めない

「した事と同質同量の事をされる」というこの摂理の存在を知らない人は、偶然たまたま、この人生があると思っ

ているはずですが、
見えないものの存在、即ち、過去も未来をも認めること



が出来ず、今あるこの人生だけが全てだと思っ
ている事でしょう。

そして世の中は偶然だらけで、不公平で不平等だと思っ
ているはず。しかしそうではありません。

人生はすべてが必然の連続です。

偶然もたまたまも、運の良し悪しも不平等も不公平も一
切ありません。

良い事であっても悪い事であっても、その中身に関係な
く、私達はした事をされるのです。

すべては自分の過去の行いを原因として、その結果の姿
が表われ、いま私達はそれを体験し続けているのです。

過去の自分の間違いは、相手が加害者という形になって
教えてくれます。

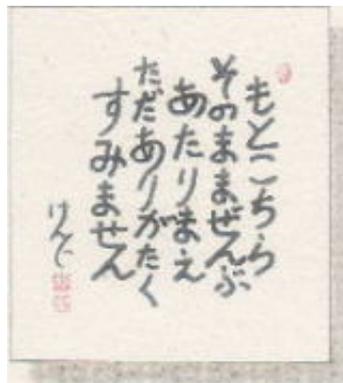
自分が被害者となった時は、相手の中に過去の自分の姿
を想像し、人の振り見て、我が振りを直すことです。

そして、相手を責めず自分をも責めず、済んでしまった
昔の事はいつまでも根に持たず、反省・お詫び・訂正して、
心楽しく明るく前に進む事が大切です。

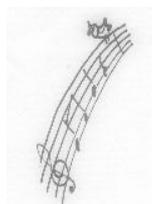
そしてなお、被害に遭った時に、加害者となった相手の
ことを責めるどころか、心の底からその人の幸せを祈るこ
とが出来るとなれば、それは上品お上品です。

尚一層魂の浄化は進み、幸せに向かってまっしぐらに進
むことは、間違いありません。

「した事をされる」というこの単純明快な摂理を心の底
から理解した人は、した事をされるといふ因果の中にあり
ながら、永遠の命を得て、悪い事をされても良い事で返し、
そしてまた、良い事をされてもつと良い事をして返すとい
う、幸せ一元の輝く世界に向かう事が出来るようになるの
です。
そこは、いわゆる宗教が最終目標として掲げるあの全感
謝の世界です。



前4年間の内
2年分を一冊に掲
載しています。



編集発行人
もとはこちら会 資料編集部 北原友也
専用HP <http://www.motoha-kochira.com>
mail: data3@motoha-kochira.com